

平成30年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 友達への思いやり	3 道徳・心の教育の充実
学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。	子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)
○一人一人の生徒の尊重については、昨年度と比べ4と3の割合は保護者は91パーセントと前年度比(△6%)の上昇であった。生徒は91%と前年と同数であった。三者の受け止め方には若干の違いがあるものの本校職員が生徒を大切にしている姿勢が受け止めているのは確かである。保護者の受け止めはかなり肯定的になっていることから、学校行事への呼びかけや広報活動、PTAとの連携に一定の成果があがっていることは確かである。道徳・心の教育の充実の観点にも整合性があり、職員と保護者が同じ受け止め方をしていると思われる。来年度も道徳の教科化、開かれた学校経営を活用し、生徒のよさを対外的によりアピールしたい。		

②確かな学力を育む教育の推進

4 意欲的な学習態度	5 授業力向上	6 ICT活用
子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。	先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。
○授業作りの工夫に関して、生徒の「3」「4」の割合が88%で前年比(△3%)の上昇であった。その影響からか、意欲的な学習態度に関しても生徒の「3」「4」の割合が91%となり、今年度も9割を維持している。各学年で実施している「やればできるテスト」の継続や学習の約束の徹底が成果につながっていると考えられる。しかし、「2」「1」をつけた生徒が12%もいることから勉強が「わからない」「楽しくない」という子どもが存在するということを謙虚に受け止めなければならない。加えて、ICT機器を使用した授業作りに関しても否定的な割合が保護者、生徒とも多く職員との評価に開きがあることも新たな課題であることから授業参観等でアピールする必要がある。		

③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり
子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。
健康づくりに関しては、概ね健康な生活を送っている。しかし、基本的な生活習慣が定着していない割合が保護者回答で約20%を超えたことから、健康教育の充実と運動促進プロジェクトの再活用に課題が残る。部活動未加入生の体力づくりも考えなければならない。

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

8 児童生徒理解
先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとして努めていると思いますか。
昨年度は、生徒理解といじめ問題への対応については、三者の回答に大きな開きがあった。しかし、今年度は、「4」「3」と回答した生徒の割合は87%と95%で前年比(生徒理解△2%) (いじめ対応△4%)と上昇している。特に、いじめの対応については日頃より丁寧かつ迅速な対応と保護者へのきめ細やかな説明と継続的な家庭訪問に起因すると考えられる。しかし、「2」「1」と回答した保護者の割合が12%で前年比(5%)の上昇で、いじめの対応に未だ不満を持つ家があることも肝に銘じなければならない。学校の支援体制については、学校の取組を各種たより、ホームページ等で発信し、理解を得る必要があると思われる。

②特別支援教育の推進

9 いじめや問題への対応	10 学校の支援体制
学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。	学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

①子どもたちの身近な安全対策の充実

11 安全と事故防止
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。
三者の回答に開きがあり、「1」と回答した割合が保護者で10%も見られる。生徒指導の一環として継続的に行っている帰宅指導を全職員習慣化し、生徒の事故防止と交通マナーも啓発して行きたい。自転車事故防止も含め十分な指導していきたい。

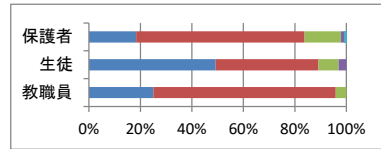
②最適な学習環境の整備

12 施設・設備の安全管理
学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。
保護者との安全に関する情報を交換しながら安全管理に取り組んでいるが、発信する機会が少ないので安全管理の取組は保護者に分かりづらいと思われる。PTA総会や懇談会を通して理解を得られるようにしたい。

③家庭・地域社会との連携強化

13 教育方針・目標の理解

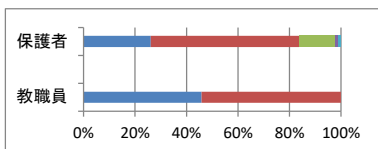
学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



教育方針や目標の理解にちは、概ね良好であるが、「1」と回答した生徒は8%、保護者3%もいたことから課題が残った。生徒集会や校長講話で分かりやすく説明しているものの、「2」と回答した生徒の割合も21%も見られることから決して十分とは言えない。今後は、業績評価の期首面談で職員目標と学校経営目標に整合性を持たせ、全職員が常に、意識していくことを目標とする。

14 家庭や地域との連携協力

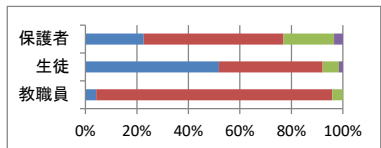
学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



⑧本校の教育

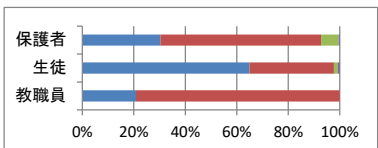
15

子どもは、地域のみなさまに挨拶ができていると思いますか。



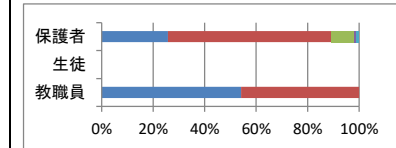
16

子どもは、校則や集団としてのマナーを守っていると思いますか。



17

学校からの文書で、学校の情報が十分発信されていると思いますか。



本校の教育活動の中で特に、「あいさつ」「マナー」面には力を入れている。保護者と教職員の回答に大きな変化があり、あいさつで「2」と回答した割合は教職員4%に対し保護者20%、マナーに関しては「2」と回答した教職員0%に対し保護者7%と到達目標に差がある。集団の中での生徒と家族の中での生徒の評価環境の違いは否めないが、学校の情報が十分に発信されているのか、生徒の本来の姿を学校行事等で多くの保護者に見てもらえるのか、啓発の仕方や行事への呼びかけ等を考えれば、工夫改善の余地は大いにある。次年度は保護者の学校参加意欲を高めるため、行事や啓発活動に付加価値が付くよう努力したい。今年度は総じて職員の生徒に対する評価は高い。

来年度の具体的な取り組みについて

- 教育目標方針については、さらに分かりやすく、学級・学校便り、PTA新聞、諸団体合会などあらゆる機会を通して情報発信を行う。数値全体の推移を見ても、学校に対して支持的な基盤はできている。
- 毎時間の授業の充実のための教材開発を続けていくとともに、学力充実と厳しい状況の子どもの生活習慣の確立など、個に応じた学習のさらなる徹底を図っていく。
- 学校の職員や生徒会だけではなく、PTAや地域の諸団体と連携しながら基本的な生活習慣のキャンペーンの実施などを通して、挨拶、マナーなどの規範意識を育てる指導の徹底を図る。
- 安全、食育、総合・教科学習の面から、保護者・地域との人材交流、情報の共有をさらに進め、地域に根ざした教育を充実させる。また、年2回行っている地域一斉清掃を地域住民とタイアップし、前年度より充実を図る。
- 心身ともに健康な生活を送れるように、より一層の工夫に努めたい。(生徒会活動と体力向上プロジェクトの成果の活用)
- 熊本市学力調査より生徒の学力を分析し、きめ細やかな指導の工夫改善に努めたい。全教科、全職員による学びノートの効果的な活用を行う。
- 体力向上として、年間指導計画を見直したり体力づくり月間を設けたりして子どもたちの体力向上に向けて取り組んだ。どの学年も全国の平均を上回る種目が多くなった。体力向上優秀校になる等、総体的に生徒の体力は向上している。来年度は部活動未加入者の体力向上に努めていく。

学校関係者評価

- 公開授業や体育大会、文化学習発表会、合唱コンクール等の学校行事を通して、生徒たちが楽しく学校生活を送っていることがよく伝わってくる。学校教育目標では、保護者・児童・教職員ともに「3」「4」の割合が昨年度よりも確実に伸びており、学校の取り組みの成果が評価されていると言える。
- 教科指導等では、一人一人のニーズに応じた教育活動の工夫が見られた。11月の心かがやけ月間の道徳の公開授業参観でも先生方の工夫や努力が子どもたちの力を伸ばしていることが実感できた。
- 生徒指導・教育相談では、あいさつの励行や規範意識の醸成を図ってきたが、さまざまな事情を抱えている子どもがおり、細やかな配慮をしながらすべての子どもたちが心豊かに育ってくれるようにしていきたい。
- 健康教育・安全では昨年度の体力向上推進の取り組みが生きていたので、今後の子どもたちの活動につなげてほしい。特に、部活動が活性化したくましい生徒の姿が見られるようになった。防犯・交通安全については学校安全対策協議会や南警察署のネットワーク会議を活性化し、地域と一体になり進めていきたい。
- 家庭・地域との連携は子どもたちの成長を願う学校を中心としていっそうの連携協力を実践してほしい。